



大阪城は、いつ、何のためにつくられたの



^{とよとみひでよし}豊臣秀吉が、天下を治める^{ほんきよち}本拠地にするため、1583年から約10年かけてつくったんだよ。

大阪は、守るに適した土地だった

大阪は、海に面し、^{よどがわ}淀川や^{やまとがわ}大和川の^{あみ}分流が網の目のように流れるという、守るに適した土地でした。1496年、^{じょうどしんしゅう}浄土真宗（^{いっこうしゅう}一向宗）の^{れんによ}リーダーだった蓮如が、今の大阪城のあたり（または、その^{いしやま}南寄り）の^{ぼうしゃ}石山に、坊舎（僧が住む家）を建てたのも、そのことが理由だったようです。

天下を治める本拠地にするためにつくった

大阪は、日本最大の都市だった京都と、日本最大の港町だった^{さかい}堺に近く、淀川水運と瀬戸内海水運を結ぶ地点にあるため、物資を運ぶ^{ちゅうけいち}中継地として、^{しょうらい}将来発展する見こみが大いにある土地でした。そのため、1532年に^{ほんがんじ}本願寺の本拠地になると、町ができ、商業が発達して、経済の中心地になりました。豊臣秀吉も、発展する見こみがある大阪に、自分の城をつくり、城下町を整備して、天下を治める本拠地にしましたのです。

秀吉の力を天下に示すため、^{たいきぼ}大規模で^{ごうか}豪華な城をつくった

石山の本願寺あとに、大阪城をつくる工事が始まったのは、1583年です。この工事には、30あまりの国から、2万～3万の人々を集めたそうです。^{よくねん}翌年には、秀吉が新しくできた住まいに入りましたが、その後も工事が続き、完成まで約10年かかったようです。秀吉の力を天下に示すため、大規模で豪華な城ができたようですが、1615年の大阪夏の陣^{じん}で焼けたため、くわしいことはわからないままです。